

第 227 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2010 年 12 月 3 日(金) 18 時 00 分~19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 林 孝文 氏

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面再建学講座・教授)

タイトル: 頭頸部領域における超音波診断の最前線

頭頸部領域において、特に歯科診療に関係して超音波診断が利用されてきた解剖構造としては、大唾液腺、頸部リンパ節、咀嚼筋、舌・頬粘膜などがあり、さらに顎関節、血管、顎口腔領域の周囲間隙などが挙げられる。これまで演者は、頸部リンパ節転移診断をはじめとして、舌粘膜や顎関節内障の評価、上頸神経節や顎動脈などへの応用について報告してきた。特に最近では、歯科での普及を念頭に、携帯型超音波診断装置のリンパ節転移診断精度に関する検討や、根尖病変の診断への応用を展開してきた。

本講演では、以下の事項を中心に頭頸部領域における超音波診断の最前線の状況を述べるとともに、歯科における今後の展望について聴衆の方々とディスカッションしたいと考えている。

- 1) 短径 10 mm 未満の転移リンパ節の検出手法
- 2) 口腔内走査による舌癌の深達度評価
- 3) 顎関節・根尖病変への応用

超音波診断の特徴のひとつに、撮影と同時に画像を解釈し診断を行うという特性があるが、これには経験とスキルが要求され、それが大きな壁となっている。歯科で普及するためには、さらなる装置の小型化・低廉化とともに、撮影の簡便さを含めた画像解釈の容易さが必須となると思われる。逆に言えば、歯科臨床に適合した超音波診断装置の大変革があれば、将来的に潜在需要を掘り起こすことも不可能ではないと考えられる。

担当: 硬組織疾患制御再建学講座 田 口 明